

一般演題（ポスター）

2025年11月2日(日) 13:50～14:30 〇〇 ポスター会場B-11

[P] 一般演題（ポスター） 「教育・研修・実務実習」

[P-149-B] 対人業務推進におけるRMP活用を目指した症例検討会の評価および意識調査

〇今井 真穂¹, 大貫 ミチ², 村上 篤史³, 福田 達也³, 谷合 英太郎⁴, 吉住 和樹⁴, 倉田 香織⁵, 上田 昌宏⁶ (1.薬樹(株) 薬樹薬局 ライフ溝口店, 2.宮前平2号店, 3.神奈川グループ, 4.情報本部システムグループ, 5.東京薬科大学 薬学部, 6.摂南大学 薬学部)

【目的】 RMPの活用は対人業務の質向上につながるため、社内研修の一環として、薬局薬剤師を対象としたRMP活用を想定した症例検討会を実施した。RMPに対する意識調査および検討会の効果を検証するために、検討会前後でアンケート調査を行った。

【方法】 2025年4月16日と19日に90分の症例検討会をzoomで行い、症例に対しRMPの活用方法を検討する内容とした。アンケート調査は、社内限定公開のGoogle Formsにより行った。RMPに対する意識について、5件法（プレ「自信がない～自信がある」、ポスト「変わらない～自信がついた」）で回答する内容として単純集計を行った。RMPの理解について、プレポストが同一設問の4件法（「1.知らない、2.知っているけど説明できない、3.自信はないけど説明できる、4.説明できる」）とし、ウィルコクソンの符号順位検定で解析した。両アンケートに回答した場合を有効回答とした。

【結果】 参加者は19名（有効回答17名）であった。RMPの意識について1,2（低度）、3（中度）、4,5（高度）の3群にて分類した。人数の割合は、「患者向け資材の説明への自信」プレ（低度：29.4%, 中度：35.3%, 高度：35.3%）、ポスト（0%, 5.9%, 94.1%）、であった。RMPの理解について、「“本文・医療従事者向け資材・患者向け資材”の説明ができるか」（平均値プレ1.94, ポスト3.35, $p<0.001$ ）、「“重要な特定されたリスク・重要な潜在的なリスク・重要な不足情報”の説明ができるか」（1.71, 3.24, $p<0.001$ ）であった。

【考察】 研修後のアンケートから、資材を用いた説明に対する自信がついており、意識が向上したものと考えられる。また、RMPの理解について、リスク分類や資材に関する設問が統計的に有意に向上していた。以上から症例検討会は効果的だったと考えられる。一方で、参加直後のアンケートであったため、受講後のRMP活用状況について確認できていない。